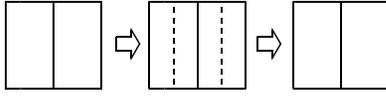


次	学習活動 ねらい	児童の意識の流れ		教師の支援 活用力を育てる手だて・工夫 および 評価
		じっくりコース	チャレンジコース	
第一次 分数のたし算とひき算	①分数のふり返り  分数についての既習内容を振り返る	<p>〈分数についてふり返ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分数△/○は、あるものを○等分したうちの△つ分の大きさを表している。</li> <li>分数には、真分数、仮分数、帯分数がある</li> <li>分数の大小は、 分母が同じなら分子の大小で決まる <math>1/3 &lt; 2/3</math> 分子が同じなら分母の大小で決まる <math>1/6 &lt; 1/5</math></li> <li>同分母分数どうしの加減計算は、分母はそのまま、分子だけを計算すればいい。 <math>\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{5}</math> <math>\frac{3}{5} - \frac{1}{5} = \frac{2}{5}</math></li> </ul>	<p>〈分数とはどんな数か?〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分数△/○は、あるものを○等分したうちの△つ分の大きさを表している。</li> <li>整数や小数でも表せない数を表せる。 (<math>1/3</math>、<math>1/6</math>、<math>1/7</math>・・・)</li> <li>分数の分子÷分母の計算をすれば小数で表せる。 分数は、同じ大きさをいろいろな表し方で表すことができる。 <math>\frac{1}{3} = \frac{2}{6} = \frac{3}{9}</math>・・・</li> <li>同分母分数どうしの加減計算は、分母はそのまま、分子だけを計算すればいい。 <math>\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = \frac{3}{5}</math> <math>\frac{3}{5} - \frac{1}{5} = \frac{2}{5}</math></li> </ul>	<p>分数では、単位分数<math>1/2</math>、<math>1/3</math>、<math>1/4</math>・・・がものさしのめもりになっていて、単位分数がいくつ分という表し方をしている小数<math>0.1</math>は単位分数<math>1/10</math>と同じであることに気づかせる(数直線に表す)</p> <p>評価〈関〉 分数に関する既習事項を振り返り、いろいろな表現で説明しようとしている。 【発言・ノート】</p> <p>C→B ・示された図を見て、分数の意味や表し方を簡単なことばで表現させる。</p> <p>B→A ・図(数直線、面積図など)をかいたりしながら分数の大きさや等しい分数や加減算などについて説明させる。</p>
	②異分母分数のたし算  異分母分数の加法計算の考え方が理解できる		本 時	
	③大きさの等しい分数(同値分数)の作り方  分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらないことが理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>違う分母でもたし算ができた。</li> <li>違う分母を同じ分数にしたらたし算ができた。</li> <li>〈<math>1/2</math>と等しい分数は、どのようにすると作れるだろう〉</li> <li>分母をふやしていくと、それに伴って分子もふやしていくはずだ。</li> <li><math>1/2</math>とは半分のことだから、分母が2,3・・・倍になれば、分子も2,3・・・倍になるはずだ。式にすると、 <math>\frac{1}{2} = \frac{1 \times 2}{2 \times 2} = \frac{1 \times 3}{2 \times 3} = \frac{1 \times 4}{2 \times 4} = \dots</math></li> <li>それなら、逆に小さくもなっていく、かけ算ができるならわり算もできる <math>\frac{1}{2} = \frac{1 \times 2}{2 \times 2} = \frac{2}{4}</math>、<math>\frac{2}{4} = \frac{2 \div 2}{4 \div 2} = \frac{1}{2}</math></li> <li>分母に2をかけたら、分子も2をかければ、等しい分数になる。</li> <li>分母を2でわったら、分子も2でわれば、等しい分数になる。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1/2の分母と分子に同じ数をかけても同じ数でわっても分数の大きさは変わらず、等しい分数といえる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分母が違っていてもたし算ができた。</li> <li>違う分母を同じ分数にしたらたし算ができた。</li> <li>〈<math>1/2</math>と等しい分数は、どのようにすると作れるだろう〉</li> <li>面積図や式(計算)で考えてみよう。</li> <li>分母が変わっていくと、それに伴って分子も変わっていく。</li> </ul>  <p style="text-align: center;"><math>\frac{1}{2} = \frac{1 \times 2}{2 \times 2} = \frac{2}{4}</math>、<math>\frac{2}{4} = \frac{2 \div 2}{4 \div 2} = \frac{1}{2}</math></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分母に2をかけたら、分子も2をかければ、等しい分数になる。(分母が2倍になれば、等分する大きさは<math>1/2</math>の大きさになる)</li> <li>分母を2でわったら、分子も2でわれば、等しい分数になる。(分母が<math>1/2</math>になれば、等分する大きさは2倍の大きさになる)</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1/2の分母と分子に同じ数をかけても同じ数でわっても分数の大きさは変わらず、等しい分数といえる</p>	<p>分母が大きくなっていく意味と分子が大きくなっていく意味を面積図でとらえさせる</p> <p style="text-align: center;"><math>\frac{1}{2} = \frac{2}{4} = \frac{3}{6} = \dots</math></p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>分母を×2にすると同時に、分子も×2にすると等しい大きさになる理由を理解させる</p> <p>評価〈考〉 分母の大きさに着目して、異分母分数の大小比較のしかたを考えている。 【観察・発言・ノート】</p> <p>C→B ・分数の性質を使って等しい分数を作って同分母分数を求め、大小比較できるようにさせる。</p> <p>B→A ・図や式を用いて等しい分数を作って同分母を求め、大小比較できるようにさせる</p>
④通分の意味と方法および異分母分数の減法計算  通分の考えと異分母分数の減法計算の仕方を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>2/3</math>mと<math>3/4</math>mでは、どちらが長いだろう。</li> <li>違う分母どうしのひき算だから、たし算の時と同様に、違う分母をそろえて同じ分数にすればひき算もできる。 <math>\frac{2}{3} - \frac{3}{4} \begin{cases} 2 &lt; 3 ? \\ 3 &gt; 4 ? \end{cases}</math></li> <li>分母が違うと式が作れないから、ひき算は分数の大小をはっきりさせないといけない。</li> <li>〈分母の違う分数の大きさを比べよう〉</li> <li>順に等しい分数を作って同じ分母になる分数をさがす。 <math>\frac{2}{3} = \frac{4}{6} = \frac{6}{9} = \frac{8}{12}</math>、<math>\frac{3}{4} = \frac{6}{8} = \frac{9}{12}</math></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>2/3</math>mと<math>3/4</math>mでは、どちらがどれだけ長いだろう。</li> <li>分母が違う分数どうしのひき算だから、たし算の時と同様に、違う分母をそろえて同じ分数にすればひき算もできる。 <math>\frac{2}{3} - \frac{3}{4} \begin{cases} 2 &lt; 3 ? \\ 3 &gt; 4 ? \end{cases}</math></li> <li>分母が違うと式が作れないから、ひき算は分数の大小をはっきりさせないといけない。</li> <li>〈分母の違う分数の大きさを比べよう〉</li> <li>順に等しい分数を作って同じ分母になる分数をさがす。 <math>\frac{2}{3} = \frac{4}{6} = \frac{6}{9} = \frac{8}{12}</math>、<math>\frac{3}{4} = \frac{6}{8} = \frac{9}{12}</math></li> </ul>		

・公倍数を用いて

$$\frac{2}{3} = \frac{2 \times 4}{3 \times 4} = \frac{8}{12}$$

$$\frac{3}{4} = \frac{3 \times 3}{4 \times 3} = \frac{9}{12}$$

$$\frac{9}{12} > \frac{8}{12} \text{ だから } \frac{3}{4} > \frac{2}{3}$$

ということがわかった。

- ・2つの分母の公倍数を用いて共通な分母にすることを「通分」という。

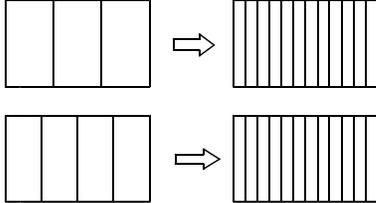
分母の違う分数のひき算は、通分して分母を同じにすれば、たし算と同様に大小がわかる

・公倍数を用いて

$$\frac{2}{3} = \frac{2 \times 4}{3 \times 4} = \frac{8}{12}$$

$$\frac{3}{4} = \frac{3 \times 3}{4 \times 3} = \frac{9}{12}$$

- ・面積図を用いて



$$\frac{9}{12} > \frac{8}{12} \text{ だから } \frac{3}{4} > \frac{2}{3}$$

ということがわかった。

- ・だから式は、

$$\frac{3}{4} - \frac{2}{3} = \frac{9}{12} - \frac{8}{12} = \frac{1}{12}$$

- ・2つの分母の公倍数を用いて共通な分母にすることを「通分」という。

分母の違う分数のひき算は、通分して分母を同じにすれば、大小がわかって正しい式も立てられるし、計算もできる

評価〈考〉異分母分数の減法計算の方法を通分の考え方をを使って考えている。

【観察・発言・ノート】

C→B

- ・通分すれば、既習の分数と同じように処理できることをとらえさせる。

B→A

- ・図を使って分母の最小公倍数で通分して分母をそろえて処理させ。

適用問題

どちらが大きい分数かを判断するゲーム

$$\frac{1}{2} \text{ と } \frac{3}{8} \quad \frac{2}{3} \text{ と } \frac{3}{5} \quad \frac{6}{8} \text{ と } \frac{5}{7}$$

⑤約分の意味と方法

約分の意味と方法が理解できる

- ・24/36 と同じ大きさの等しい分数を見つけよう

$$\frac{10}{12} \quad \frac{8}{12} \quad \frac{6}{9} \quad \frac{6}{8}$$

$$\frac{4}{6} \quad \frac{3}{5} \quad \frac{3}{4} \quad \frac{1}{2}$$

〈等しい大きさの分数を見つけるため同数でわって調べよう〉

- ・24/36 を分母も分子も同じ数でわって、あてはまる分数が等しいとみなすことができるだろう。

$$24 \div 2 \quad \div 3 \quad \div 4 \quad \div 6 \quad \div 12 \quad \dots$$

$$36 \div 2 \quad \div 3 \quad \div 4 \quad \div 6 \quad \div 12 \quad \dots$$

$$\frac{12}{18} = \frac{8}{12} = \frac{6}{9} = \frac{4}{6} = \frac{2}{3}$$

分数の分母も分子も同じ数でわったものはもとの分数と等しい大きさになり、約分するという

- ・分子と分母の最大公約数(12)で約分した分数が、一番「簡単な分数」という。
- ・普通、約分は分子、分母をそれぞれの最大公約数でわって出すので、最後の行き着く所まで出すことが大切だ。

- ・24/36 と同じ大きさの等しい分数を見つけよう

$$\frac{10}{12} \quad \frac{9}{12} \quad \frac{8}{12} \quad \frac{9}{11} \quad \frac{6}{9}$$

$$\frac{6}{8} \quad \frac{4}{6} \quad \frac{3}{5} \quad \frac{3}{4} \quad \frac{1}{2}$$

〈等しい分数を見つけるにはどのようにすればよいだろうか〉

- ・24/36 を分母も分子も同じ数でわって、あてはまる分数が等しいとみなすことができるだろう。

$$24 \div 2 \quad \div 3 \quad \div 4 \quad \div 6 \quad \div 12 \quad \dots$$

$$36 \div 2 \quad \div 3 \quad \div 4 \quad \div 6 \quad \div 12 \quad \dots$$

$$\frac{12}{18} = \frac{8}{12} = \frac{6}{9} = \frac{4}{6} = \frac{2}{3}$$

分数の分母も分子も同じ数でわったものはもとの分数と等しい大きさになり、約分するという

- ・24/36 と等しい大きさの分数の中で、 $\div 12$  した  $2/3$  は、一番大きなイメージがしやすい分数と言える。
- ・分子と分母の最大公約数(12)で約分した分数が、一番「簡単な分数」という。
- ・普通、約分は分子、分母をそれぞれの最大公約数でわって出すので、最後の行き着く所まで出すことが大切だ。

評価〈知〉約分して既約分数にする方法を理解している。

【観察・発言・ノート】

C→B

- ・簡単な分数にするには分母と分子を同じ数でわっていき、これ以上わりきれないところまでわればよいことをとらえさせる。

B→A

- ・簡単な分数にするには分母と分子をそれらの公約数でわればよいことをとらえさせる。

適用問題

約分までできる？もうできない？ ゲーム

$$\frac{8}{10} \quad \frac{9}{15} \quad \frac{3}{21} \quad \frac{12}{16} \quad \frac{36}{54} \quad \frac{21}{24} \quad \frac{12}{36} \quad \frac{21}{42}$$

etc.

⑥異分母分数の計算の定着

通分、約分に気を付け、異分母分数の計算が確実にできる

- ・分母の違う分数の計算名人になろう

A  $\frac{2}{3} + \frac{1}{4}$     B  $\frac{4}{5} + \frac{8}{15}$

C  $\frac{3}{8} + \frac{7}{10}$

〈ABCのたし算の通分のしかたに気を付けて計算を行おう〉

A  $\frac{2}{3} + \frac{1}{4} = \frac{8}{12} + \frac{3}{12} = \frac{11}{12}$

B  $\frac{4}{5} + \frac{8}{15} = \frac{8}{15} + \frac{8}{15} = \frac{20}{15} = 1\frac{5}{15} = 1\frac{1}{3}$

C  $\frac{3}{8} + \frac{7}{10} = \frac{15}{40} + \frac{28}{40} = \frac{43}{40} = 1\frac{3}{40}$

- ・ABCの計算で、通分する際の分母

- ・異分母分数の計算を極めよう。

A  $\frac{2}{3} + \frac{1}{4}$     B  $\frac{4}{5} + \frac{8}{15}$

C  $\frac{3}{8} + \frac{7}{10}$

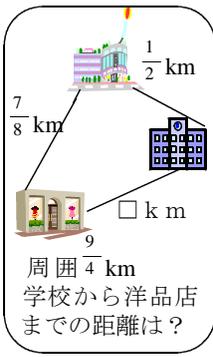
〈ABCのたし算は、どこに気を付けたらよいだろう〉

A  $\frac{2}{3} + \frac{1}{4} = \frac{8}{12} + \frac{3}{12} = \frac{11}{12}$

B  $\frac{4}{5} + \frac{8}{15} = \frac{8}{15} + \frac{8}{15} = \frac{20}{15} = 1\frac{5}{15} = 1\frac{1}{3}$

C  $\frac{3}{8} + \frac{7}{10} = \frac{15}{40} + \frac{28}{40} = \frac{43}{40} = 1\frac{3}{40}$

- ・ABCの計算で、通分する際の分母の

	<p>の決め方が違っている。 Aはそのまま分母どうしをかけあわせて通分している。 Bは分母の一方に合わせて通分している。 CはA B以外の通分の決め方で、最小公倍数をきちんと見つけて通分している。 ・通分をまちがえずに、約分も忘れずにやるのが大切だ。</p> <p>分母の違う分数の計算では、通分、約分に気を配って計算しよう</p>	<p>決め方が違っている。 Aはそのまま分母どうしをかけあわせて通分している。 Bは分母の一方に合わせて通分している。 CはA B以外の通分の決め方で、最小公倍数をきちんと見つけて通分している。 ・通分をまちがえずにやるのが大切だ。 ・約分を忘れずにやることを忘れない。 ・仮分数から帯分数への変換</p> <p>異分母分数の加法減法計算では、通分、約分に気を配って計算しよう</p>	<p>評価〈表〉 答えが約分する必要があるや答えが帯分数になる場合などを知り、適切に処理することができる。 【観察・発言・ノート】</p> <p>C→B ・答えが簡単な分数になるよう何とか処理できるようにさせる。 B→A ・答えが簡単な分数になるよう正しく判断し処理できるようにさせる。</p>									
<p>⑦ 3口の計算</p> <p>3口の計算の仕方が理解できる</p>	<p>・異分母分数の3口のたし算やひき算の計算はどのようにすればいいのだろう。 〈<math>\frac{1}{2} + \frac{5}{4} - \frac{4}{5}</math>の計算方法を考えよう〉</p> <p>・2つずつ順番にやってみよう。 <math>\frac{1}{2} + \frac{3}{4} - \frac{4}{5} = \frac{2}{4} + \frac{3}{4} - \frac{4}{5}</math> <math>= \frac{5}{4} - \frac{4}{5}</math> <math>= \frac{25}{20} - \frac{16}{20}</math> <math>= \frac{9}{20}</math></p> <p>・一挙に通分してしまってもいい。 <math>\frac{1}{2} + \frac{3}{4} - \frac{4}{5} = \frac{10}{20} + \frac{15}{20} - \frac{16}{20}</math> <math>= \frac{10+15-16}{20}</math> <math>= \frac{9}{20}</math></p> <p>・3つの分母を一度に通分してしまつた方が楽に答えが出せる。</p> <p>3つの分数のたし算ひき算は、3つの分母の最小公倍数で通分すれば、分子はふつうに計算すればいい</p>	<p>・異分母分数の3口のたし算やひき算の計算はどのようにすればいいのだろう。 〈<math>\frac{1}{2} + \frac{5}{4} - \frac{4}{5}</math>の計算方法を考えよう〉</p> <p>・2つずつ順番にやってみよう。 <math>\frac{1}{2} + \frac{3}{4} - \frac{4}{5} = \frac{2}{4} + \frac{3}{4} - \frac{4}{5}</math> <math>= \frac{5}{4} - \frac{4}{5}</math> <math>= \frac{25}{20} - \frac{16}{20}</math> <math>= \frac{9}{20}</math></p> <p>・一挙に通分してしまつてもいい。 <math>\frac{1}{2} + \frac{3}{4} - \frac{4}{5} = \frac{10}{20} + \frac{15}{20} - \frac{16}{20}</math> <math>= \frac{10+15-16}{20}</math> <math>= \frac{9}{20}</math></p> <p>・一挙に通分してしまつた方が通分がいっぺんですみ楽だ。 ・たし算とひき算が混じっているときは、左から順に通分してやつた方が通分の数が小さくてやりやすそうだ。</p> <p>3つの分数のたし算ひき算は、3つの分母の最小公倍数で通分すれば、分子はふつうに計算すればいい</p>	<p>適用問題</p>  <p>適用問題</p> <p>魔法陣に挑戦</p> <table border="1" data-bbox="1535 1358 1748 1577"> <tr> <td><math>\frac{7}{3}</math></td> <td><math>\frac{7}{12}</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>\frac{19}{12}</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><math>\frac{5}{6}</math></td> </tr> </table> <p>評価〈表〉 3口の異分母分数の加減計算の方法を理解し、正しく計算することができる。 【観察・発言・ノート】</p> <p>C→B ・2つずつ通分しながら計算させていく。 B→A ・3つの数の共通な分母を探して通分し、一挙に計算させていく。</p>	$\frac{7}{3}$	$\frac{7}{12}$			$\frac{19}{12}$				$\frac{5}{6}$
$\frac{7}{3}$	$\frac{7}{12}$											
	$\frac{19}{12}$											
		$\frac{5}{6}$										
<p>第二次</p> <p>① まとめ</p> <p>学習内容を確実に身に付けさせる</p>	<p>力をつけよう</p> <p>・仮分数や帯分数の加減算にも挑戦しよう。 ・答えが簡単な分数になっているか、必ず確かめよう。 ・小数と分数の混ざつた加減算にも挑戦してみよう。</p> <p><math>0.3 + \frac{1}{5} = \frac{3}{10} + \frac{1}{5} = \frac{3}{10} + \frac{2}{10}</math> <math>= \frac{5}{10} = \frac{1}{2}</math></p>	<p>力をつけよう</p> <p>・仮分数や帯分数の加減算にも慣れよう。 ・答えが簡単な分数になっているか、必ず確かめよう。 ・小数と分数の混ざつた加減算にも挑戦しよう。</p> <p><math>0.3 + \frac{1}{5} = \frac{3}{10} + \frac{1}{5} = \frac{3}{10} + \frac{2}{10}</math> <math>= \frac{5}{10} = \frac{1}{2}</math></p>	<p>評価〈表〉 いろいろな計算をすることができる。 【発言・ノート】</p> <p>C→B ・2つずつ通分しながら計算させていく。 B→A ・3つの数の共通な分母を探して通分し、一挙に計算させていく。</p> <p>発展問題</p> <p>小数は <math>\frac{1}{10}</math>、<math>\frac{1}{100}</math> をもとにした分数と考へて計算すれば混ざつていても分数になおして計算できる。</p>									
<p>まとめ</p> <p>② 分数ゲーム</p> <p>外的な活動を通して学習内容の理解を深め、興味を広げさせる</p>	<p>まとめ (やってみよう)</p> <p>・分数カードゲームに挑戦しよう。 <math>\frac{1}{2}</math>、<math>\frac{1}{3}</math>、<math>\frac{2}{3}</math>、<math>\frac{1}{6}</math>、<math>\frac{5}{6}</math> の5種類の分数カード(数、図)を組み合わせて、通分約分を確実にして分数の加減計算の式を作ろう。 <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{5}{6}</math> <math>\frac{2}{3} - \frac{1}{2} = \frac{1}{6}</math> etc.</p> <p>・カードを使って、新しいゲームを考えてやってみよう。</p>	<p>まとめ (やってみよう)</p> <p>・分数カードゲームに挑戦しよう。 <math>\frac{1}{2}</math>、<math>\frac{1}{3}</math>、<math>\frac{2}{3}</math>、<math>\frac{1}{6}</math>、<math>\frac{5}{6}</math> の5種類の分数カード(数、図)を組み合わせて、通分約分を確実にして分数の加減計算の式を作ろう。 <math>\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{5}{6}</math> <math>\frac{2}{3} - \frac{1}{2} = \frac{1}{6}</math> etc.</p> <p>・カードを使って、新しいゲームを考えてやってみよう。</p>	<p>評価〈関〉 学習内容を活用して、進んで活動に取り組んでいる。 【観察】</p> <p>C→B ・ゲームのしかたがわかり、楽しんで計算処理させる。 B→A ・異分母分数の通分ができるカードを考え、適切なカードを選びながら計算処理し、楽しくゲームをさせる。</p> <p>適用問題</p> <p>新しい分数カードを作って、同じルールでゲームを行う</p> <p>新しいゲーム作り "1・2・3"でカードを出し合い大きい方がどれだけ大きいか言えたら勝ち</p>									
<p>③ たしかめ</p> <p>学習内容の理解を確認させる</p>	<p>たしかめよう</p> <p>・異分母分数の加法・減法計算で気を付けねばならないことは、通分は分母の最小公倍数で、答えは約分して簡単な分数に直すことだ。</p>	<p>たしかめよう</p> <p>・異分母分数の加法・減法計算で気を付けねばならないことは、通分は分母の最小公倍数で、答えは約分して簡単な分数に直すことだ。</p>	<p>評価〈知〉 分数の加減計算の仕方を理解している。</p>									

第三 次 展	生活の中の分数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中に分数を見つけよう。 〈分数はどんな所に使われているでしょう〉</li> <li>・例 料理のレシピ 水 <math>1/2</math> カップ、 しょうゆ大さじ <math>3/4</math> 杯</li> <li>・日本ではあまり分数は使われない。 <math>1/2</math> 千円とか <math>1/2</math> 時間などとはあまり言わない。</li> <li>・外国ではよく使われているらしい。 例 <math>1/2</math> ドル (half dollar) <math>1/2</math> 時間 (half hour) <math>1/4</math> 時間 (quarter hour) 25セント (quarter)</li> <li>・日本では、量分数はあまり使われないようだ。 例 ケーキの <math>1/2</math>、りんごの <math>1/4</math> 距離の <math>1/2</math></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中に分数を見つけよう。 〈分数はどんな所に使われているでしょう〉</li> <li>・例 料理のレシピ 水 <math>1/2</math> カップ、 しょうゆ大さじ <math>3/4</math> 杯</li> <li>・日本ではあまり分数は使われない。 <math>1/2</math> 千円とか <math>1/2</math> 時間などとはあまり言わない。</li> <li>・外国ではよく使われているらしい。 例 <math>1/2</math> ドル (half dollar) <math>1/2</math> 時間 (half hour) <math>1/4</math> 時間 (quarter hour) 25セント (quarter)</li> <li>・日本では、量分数はあまり使われず、多くは割合分数として使われるようだ。 例 ケーキの <math>1/2</math>、りんごの <math>1/4</math> 距離の <math>1/2</math></li> </ul>	分数の量分数と割合分数の違いを正しく意識化させる
--------------	---------	--	--	--------------------------